

平成 27 年度 公益財団法人きょうと京北ふるさと公社事業報告書  
平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日  
(第 3 期)

## I 総括

公益財団法人へ移行後 3 期目となる平成 27 年度は、地域に根ざし公益性のある事業に取り組む農業公社として事業展開を図るべく、農地利用集積円滑化事業や、平成 26 年度から実施された農地中間管理機構制度に於ける、京北地域の窓口としての業務など農業を中心とした事業に力を注ぐとともに、京北地域における優良農地の保全及び、農林業の維持振興や担い手の確保育成に努め、美しい農山村景観の保持や活力ある農山村社会の形成に資するなど、設立目的に沿った事業展開と年度計画の達成に向け取り組んでまいりました。

また、平成 27 年 3 月の理事会・評議員会で確認された、中長期的展望である「今後のふるさと公社のあり方」に基づく事業運営を行うために、最重点であり喫緊の課題でもある、公社施設の改修（“農”の学校機能を備えた拠点施設の充実）について、平成 28 年度から 5 年間再延長される「過疎地域自立促進特別措置法」の基で実現されるよう、具体策の早期決定と平成 29 年度での予算化に向けた検討を、京都市所管課と重ねてまいりました。

各事業に於いては、収益確保のために公社運営に於いて必要不可欠な事業所であり、平成 27 年度から新たに 4 年間の指定管理者業務を担うこととなった「道の駅ウッディー京北」並びに「宇津峽公園」については、繁忙期に好天に恵まれたことなどから、多くの方が施設利用をいただき、事業実績も伸ばすことが出来ました。収益事業である貸館事業(葬祭関連事業)においても、葬儀形態の移り変わりによる見直しは行ったものの、昨年以上の利用をいただくことが出来ました。

地域交通事業についても、3 年に一度更新される過疎地域有償運送事業の最終年度として、ふるさとバスの安全運行に努めるとともに、昨年度から継続される「京北地域内公共交通事業者連絡会議」での社会実験として、地域住民に必要な利便性のあるバスの運行を、将来に亘って行うための取り組みにも協力してまいりました。

他にも、公社機関紙「ほくほくだより」の発行により公社事業を紹介し、事業利用について案内するなど取り組んでまいりましたが、特に地域活性化事業での空き家対策に於ける定住促進については、思うような取り組みや実績を残すことができず、次年度以降の課題となりました。

平成 27 年度は、12 月に公益法人移行後初めての行政庁（京都府）による立入り検査も実施されましたが、これまでの法人運営について、大きな指摘や指導を受けることはありませんでした。また、退職者に伴う人員補充が容易でない中、それぞれの部署で職員同士が協力し合い業務に支障をきたすことの無いよう取り組み、平成 27 年度の公社運営を良好に締めくくることが出来ました。

## II 理事会・評議員会の開催

### 《 理事会 》

第1回理事会 平成27年5月14日(木)

- 1 平成26年度事業報告書の承認の件
- 2 平成26年度会計決算報告書の承認の件
- 3 役員任期満了に伴う選考委員会への役員候補者推薦の件

第2回理事会 平成27年6月9日(木)

- 1 理事長並びに副理事長及び常務理事の選定の件

第3回理事会 平成27年10月6日(火)

- 1 平成27年度補正予算第1号(案)の承認の件

第4回理事会 平成28年3月10日(木)

- 1 平成27年度補正予算第2号(案)の承認の件
- 2 平成28年度事業計画(案)の承認の件
- 3 平成28年度収支予算(案)の承認の件
- 4 平成27年度第2回評議員会開催の件

### 《 評議員会 》

第1回評議員会 平成27年5月29日(金)

- 1 平成26年度事業報告書の承認の件
- 2 平成26年度会計決算報告書の承認の件
- 3 任期満了に伴う役員選任の件

第2回評議員会 平成28年3月18日(金)

- 1 平成28年度事業計画(案)の承認の件
- 2 平成28年度収支予算(案)の承認の件
- 3 平成28年度役員報酬総額の承認の件

### Ⅲ 平成 27 年度 主要事業の内容

#### (1) 農地利用集積円滑化事業

京北地域の実態を見ると、農地・農業に関する事業は今後ますます重要視される事業でもあり、本公社としては農業公社としての役割を果たすため、本事業を公社事業の柱として取り組むとともに、農地利用集積円滑化団体として、農地の「中間保有・再配分機能」を活かし、農地の借り受けや貸し付け並びに売買等に関わり、担い手農家の経営規模拡大や新規就農者への支援活動にも取り組んでまいりました。

特に、平成 26 年度から制度化され、農地の出し手が農地集積の協力者として、協力金を受けることが出来る「農地中間管理機構制度」についても、昨年同様京北地域の窓口として、相当な時間数を貸し手や借り手の相談対応や、希望される貸付農地の申請等に費やしてまいりましたが、実際に貸し手と借り手のマッチングが成立し、集積協力金を得るまでにはかなりの条件をクリアしなければならず、平成 27 年度に於いては、京都市では初となる 1 件の実績を残せるに留まりました。

また、その反面で公社がこれまで農地利用集積円滑化団体として取り組んできた、農地集積のための利用権設定による農地の貸借や農地売買については、事業の利用が農地中間管理事業へ移行する傾向の中、思うような実績を残すことが出来ませんでした。

〔農地利用集積円滑化事業実績〕 ※ 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日迄

◇ 平成 27 年 4 月 1 日現在の継続物件	
一時保有農地件数	0 件
◇ 買い入れ農地 (田)	
件 数	0 件
◇ 売り渡し農地 (田)	
件 数	0 件
◇ 平成 27 年度末ふるさと公社一時保有農地 (平成 28 年度への継続物件)	
一時保有農地件数	0 件
◇ 利用権設定	
件 数	2 件 (山国)

〔農地中間管理制度による実績〕

◇ 成立件数 (マッチング件数)	1 件
◇ 事業に伴う相談等	
相談件数	37 件

◇ 農地貸付希望者数	
申請件数	32 件
合計面積	127,255 m <sup>2</sup>
◇ 農地耕作希望者数（認定農業者、新規就農者等）	
申請件数	25 件

## （２）田舎の便利屋事業

### 【地域担い手確保事業】

地域の方々からの幅広い要望に応えるため、田舎の便利屋事業として多種多様な作業を受託し、リストによる人材登録者への作業依頼により取り組みを進めました。

草刈などの農作業を中心に、出来る限り多くの依頼に応えられるようまた、登録者への依頼も偏ることの無いよう取り組んでまいりましたが、登録者の年齢も高齢化していることなどから、以前の作業を受けられなかったり、一度に多くの人材が必要な作業依頼に、対応出来なかったりすることも少なく、今後の対応に課題を残す現状となっています。

平成 27 年度の事業実績としては、昨年のように長期間に亘る作業依頼が少なかったことや、屋根の葺き替え等の大口工事依頼も無かったこと、また、京都市の京北合同庁舎の清掃作業など行政関係の作業受託も出来なかったことなどから、作業受託件数及び延べ人数、受託金額の全てについて昨年実績を上回ることは出来ませんでした。

- ◇ 登録者数（平成 28 年 3 月 31 日現在）  
181 人（60 歳以上 139 人、60 歳未満 39 人、団体等 3 団体）
- ◇ 受託件数（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末）  
394 件（前年度 432 件）
- ◇ 作業延べ人数（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末）  
2,170 人（前年度 2,529 人）
- ◇ 受託金額（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末）  
27,014,149 円（前年度 32,123,603 円）

### 【農作業受託事業】

農業者(農家)の高齢化による農作業依頼に対応するため、農作業受託部会による春作業(畦付け・耕起・代かき・田植え等)並びに、秋作業(稲刈り・籾運搬・肥料散布・耕起等)の受託に取り組みました。

〔農作業受託実績〕

◇ 春作業（受託件数	92 件）	
耕 起	21 件	430.78 a（再耕起含む）
代 か き	25 件	481.58 a（ハロー、ロータリー含む）
田 植 え	29 件	559.55 a
畦 付 け	13 件	2,232.00 m
そ の 他	4 件	苗箱代 他
◇ 秋作業（受託件数	121 件）	
隅 刈 り	10 件	14 枚
刈 取 り	27 件	468.00 a
籾 運 搬	47 件	196,812.40 kg（籾乾燥含む）
耕 起	20 件	383.83 a（ディスク、ロータリー含む）
そ の 他	17 件	肥料散布 他

（3）地域活性化事業

【地域特産物開発研究事業】

道の駅ウッディー京北における加工食品の取扱高は、年々増加傾向にあり総売り上げの3分の1を占める状況となっています。

平成27年度も、京北地域の中で特産物開発に力を注いでいるグループの加工食品を、積極的に取扱い5千万円を超える販売実績となりました。

また、「地産地消」と「食育」の取り組みの一環として、京北地域の各小学校へ給食資材として京北産農作物を供給するとともに、京北特産の「まごころ味噌」については、市内小学校へも供給しており、野菜の取扱いは児童の減少や、生産者の減少等による生産量の減少により、昨年以上の実績を残すことは出来ませんでした。が、「まごころ味噌」の取扱いは昨年より2倍以上の取扱い実績となりました。

公社としても、井戸、辻、上弓削にある公社に管理を依頼されている農地において、米、ジャガイモ、サツマイモ、枝豆、小豆、玉ネギ、大根、白菜、キャベツなどを独自栽培し、学校給食への提供やウッディー京北、各イベントでの販売を行うことが出来ました。

なお、端境期に於ける京北産野菜の品不足が、道の駅ウッディー京北の第一の課題であり、今後も生産者への協力依頼と併せ、新しい生産者を増やすべく取り組む必要があります。

- ◇ 道の駅ウッディー京北委託販売者会員数（平成 28 年 3 月 31 日現在）  
171 名  
※ 内、生鮮食品販売者 90 名 加工食品販売者 37 名
- ◇ 道の駅ウッディー京北加工食品販売高(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末)  
51,366,989 円 （前年度実績 49,029,401 円）
- ◇ 道の駅ウッディー京北野菜販売高(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末)  
24,405,481 円 （前年度実績 24,198,637 円）
- ◇ 学校給食地産品取扱高 8,018,954 円（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末）
 

野菜	537,794 円	（前年度実績	577,275 円）
納品総重量	1,154.3 kg	（前年度実績	1,529.4 kg）
米	57,600 円	（前年度実績	57,600 円）
納品総重量	144.0 kg	（前年度実績	144.0 kg）
味噌	7,423,560 円	（前年度実績	3,494,827 円）
納品総重量	12,130.0 kg	（前年度実績	5,738.5 kg）

#### 【ふるさと振興等調査研究事業】

相談者の京北地域への定住促進を図るため、空き家情報の収集・提供に取り組みとともに、9 年目となる「市民農園」の運営に取り組み、農園利用者との交流と地域活性化並びに農地の活用を図りました。

#### ① 空き家情報の提供による定住促進

京北地域には、250 戸を超える空き家があるにもかかわらず、空き家提供者はごく僅かであり、公社として、既存データの中から空き家を紹介し取り組んでまいりましたが、問い合わせや相談に十分な対応をすることが出来ず、平成 27 年度の定住実績はわずか 1 件であり、満足な結果を残すことが出来ませんでした。

相談者の要望を満たし、定住に結びつけるためには、住環境に対する課題対策も併せて取り組む必要があると思われるため、次年度は行政や自治振興会と情報を共有しながら、定住促進に向け積極的に取り組みます。

- ◇ 平成 27 年度取り組み実績（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末）
 

新規空き家登録件数	3 件（空き家登録合計 12 件）
定住者件数	1 件（上弓削）
相談受付件数	20 件

## ② 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

開園 9 年目となる市民農園では、地域活性化の一環として農園を通じて利用者との交流を図り、土・日、祝祭日を中心に京北地域へ来ていただけるよう取り組みを進めました。

しかしながら、農園の利用状況については、高齢化等により従来からの利用者の継続利用が減少していることと併せ、複数区画を借りられる利用者も減少していることから、最終的に新規申込により利用者は増えたものの、利用区画については、昨年を上回る実績を残すことができませんでした。

残り区画を有効に活用するため、閲覧の多くなったホームページやイベントでの事業 PR など、年間を通じた取り組みで利用者の募集を積極的に行う事が必要な時期となっています。

恒例となっている秋の収穫祭では、農作物の品評会を行い、昼食時には農園利用者、地元寺山地域の住民の方々、公社関係者、合わせて 42 名が、鹿肉カレーや鹿肉の串カツなどジビエをテーマにしたメニューで昼食をとりながら、交流を深めることができました。

なお、農園の空き区画については、平成 27 年度は公社として「ハロウィンカボチャ」を栽培し、宇津峡公園でのイベント等で使用いたしました。

### ◇ 平成 27 年度「市民農園」利用実績

募集区画数 …… 57 区画

利用区画数及び利用者数 …… 32 区画、22 名

※ 平成 26 年度 34 区画、21 名

年間利用料 …… 一区画(約 40 m<sup>2</sup>)当たり 15,000 円

### ◇ 市民農園でのイベント

収穫祭 …… 実施日：11 月 21 日

参加者：42 名(農園利用者、地域住民、関係者(京都市、JA、公社))

## 【都市と農山村交流事業】

都市住民との交流により地域活性化を図るため、年間計画として市民農園や道の駅ウッディー京北等でのイベントを開催し、都市住民を京北地域に呼び込むとともに、他地域でのイベントにも積極的に参加し京北地域の PR 活動に努めました。

[平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末 主催イベント]

◇ 市民農園 (1 回)

- ・ 11 月 21 日 市民農園収穫祭  
内容：品評会・昼食を囲んでの交流・ポン菓子  
鹿肉カレー・鹿肉串カツ・焼き芋

◇ 道の駅ウッディー京北 (3 回)

- ・ 4 月 11 日 道の駅開駅 5 周年記念イベント  
内容：南幌物産展・ポン菓子販売・餅つき
- ・ 11 月 22 日 秋の感謝祭  
内容：ポン菓子販売・餅つき
- ・ 12 月 27 日 年末終い市  
内容：餅つき

[平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末 参加イベント]

◇ 京北地域内 (2 回)

- ・ 8 月 16 日 京北夏まつり  
内容：鹿肉串カツ販売・鹿肉コロッケ販売
- ・ 11 月 3 日 京北ふるさと祭り  
内容：野菜販売・鹿肉串カツ販売・鹿肉コロッケ販売

◇ 京北地域外 (5 回)

- ・ 10 月 24 日 右京区民ふれあいフェスティバル (太秦安井公園)  
内容：野菜販売・鹿肉串カツ販売事業紹介
- ・ 11 月 7 日 京の農林秋まつり (上賀茂神社)  
内容：野菜・玉子かけごはん・大学芋・豚汁・焼き芋
- ・ 11 月 27 日 西の鯖街道物産店 (大阪府千里中央広場)  
内容：高浜町、おおい町、南丹美山町、京都京北  
4 町の特産品販売
- ・ 2 月 27 日 冬の京野菜フェア (京都市役所前広場)  
内容：野菜販売、京北鍋の販売、ポン菓子の販売
- ・ 3 月 26 日 花降る里けいほく SAKURA フェスタ (ゼスト御池)  
内容：京北産商品の PR・販売、飲食物の販売 他



#### (4) 地域交通事業

##### 【京北ふるさとバス】

3年に一度更新される、「京都市京北地域過疎地有償運送事業」の最終年度に当たる年でもあり、地域唯一の公的生活交通手段として、地域住民の安全・安心な“足”となるよう、京都市との連携のもとふるさとバスの運行に取り組んでまいりました。

年間を通じて無事故で安全なバス運行を行うため、公安委員会が実施する法定講習会に積極的に参加し、学んだ知識を乗務員全員で共有できるよう取り組むとともに、地域から信頼され愛されるバス事業に取り組むため、地域バス案内所に於ける、京北地域の交通案内や観光に関する問い合わせ対応をはじめ、定期券の発券、共通回数券の販売など、利用者の利便性を図りながら、乗車人員の減少を防ぐための取り組みも継続して行ってまいりました。

しかしながら、ふるさとバスの状況としては、中学生の通学に伴う乗車が、運営に大きく影響することとなっており、少子高齢化の地域の実態から年々厳しい運営状況となっています。

そのため、一昨年から京都市が中心となり、京北地域内の公共交通事業者と検討を行う、「京北地域内公共交通事業者連絡会議」が設けられ、平成27年度についても、効率的で地域住民に必要な利便性のあるバスの運行を存続するための社会実験にも協力し、北桑田高校生の通学に伴うダイヤと料金設定については一定の成果も見ることができました。

また、ふるさとバスに少しでも興味を持っていただこうと、11月3日に取り組んだバス祭りでは、子供連れの多くの方が参加をいただきました。

そのような取り組みを行う中ではありましたが、平成27年度の実績としては、乗車人員、運行収入ともに昨年実績を上回ることはできませんでした。

なお、『過疎地有償運送』として運行して参りましたふるさとバスについては、道路運送法に基づく名称変更により、『公共交通空白地有償運送』として運行することとなりました。

◇ 平成27年度運行実績（平成27年4月～平成28年3月末）			
乗車人員	66,486人	（前年度実績	67,089人）
運行収入	16,596,780円	（前年度実績	17,316,650円）

##### 【スクールバス】

京北地域の児童生徒の通学及び教育活動のため、京都市教育委員会から全面委託を受け、1,850万円の委託料により、スクールバス運行を行ってまいりました。

学校や京都市教育委員会との連携を密に取りながら、ふるさとバス同様安全

運行を第一の目標に掲げ内部研修にも取り組みながら、事故を起こすことなく一年間運行することができました。

## (5) 公共施設管理事業

### 【地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業】

平成 27 年度から新たに 4 年間、京都市指定管理者制度に基づく指定管理者として指定を受け、「道の駅」としての三つの機能(休憩機能・情報発信機能・地域の連携機能)を果たしながら、京北地域の中心に属する地域の拠点施設として、施設の管理運営事業に取り組みました。

ウッディー京北は、地域活性化や地域振興につながる公益的な委託販売事業部門と、喫茶に関する収益事業部門に分かれておりますが、いずれも接客対応が重要視されるサービス業であるため、平成 27 年度は内部会議の充実や職場内研修の実施、他の道の駅への視察研修など職員の資質向上のための取り組みも行いました。

内部会議では、特に懸案でありました喫茶メニューについても検討を重ね、京北の食材を使った新しいメニューを、平成 28 年 4 月より提供させていただくことになりました。

土・日・祝祭日の天候により、来客数と売り上げ実績が影響を受ける事業所でもあります。経費の削減や費用対効果も追及しながら健全な運営に努め、平成 27 年度の実績として、入館者は 40 万人を超え道の駅となった平成 23 年度に次ぐ実績となり、総売上げは過去最高の 1 億 4,720 万円余りの実績となりました。

- ◇ 道の駅ウッディー京北入館者数(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末)  
404,282 人 (前年度実績 391,807 人)
- ◇ 道の駅ウッディー京北売上高(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月末)  
147,295,752 円 (前年度実績 139,840,131 円)
- ◇ 年間レンタサイクル貸し出し実績 70 台

### 【宇津峽公園管理運営事業】

平成 27 年度から新たに 4 年間、京都市指定管理者制度に基づく指定管理者として指定を受け、都市住民との交流拡大施設としてまた大型アウトドア施設としてコテージ、キャンプ場等の管理運営事業に取り組みました。

平成 27 年度は、好天に見舞われ 8 月に多くの利用者を迎えることができたことや、オートキャンプの利用がブームにより増えたこと、入園者が減少に向かう秋以降の、ハロウィンや凧作りなどの集客イベント企画、あるいは地域協

方団体との宇津峡公園での催しPRなど、年間を通しての施設利用と集客に積極的に取り組み、12,698人の開園以来2番目となる入園者実績と、昨年よりも300万円余り多い2,290万円の収入実績を残すことが出来ました。

また、3回施設利用いただければ1回分の入園料が無料となる、ポイントカードについても新しく取り組み、11,182枚を発行しそのポイント利用による入園者も92名ありました。

他にも、ラフティング(川下り)の実施に向けての検討など、次年度からの集客につながる新しい取り組みについても準備を進めてまいりました。

宇津峡公園の管理運営事業は、公益事業を補完する収益事業として重要な位置付けの事業であり、今後も安定的な収益確保を目指し取り組みます。

- ◇ 宇津峡公園入園者数（平成27年4月～平成28年3月末）  
12,698人（前年度実績 11,776人）
- ◇ 宇津峡公園収入金額（平成27年4月～平成28年3月末）  
22,921,151円（前年度実績 19,848,733円）
- ◇ ポイントカード発行数  
11,182枚

## （6）葬祭関連事業

収益事業として公益的な事業を補完し、ふるさと公社の安定経営に向けた財務基盤を確立するための貸館事業として取り組んでまいりました。

地域の高齢化・核家族化が進み住民意識も変化するなか、小規模で費用も抑えて執り行われる家族葬が増えるなど、葬儀形態も大きく移り変わる現状にあるため、情報紙等で家族葬対応が可能であることをお知らせし、利用促進につなげました。

また、老朽化に伴う施設の改修が課題ではあるものの、マイクロバスによる火葬場への送迎や初七日法要対応など、利用いただく地域の皆様に利便性を感じていただける運営に取り組み、利用実績を積み上げてまいりました。

年間の平均である38件の利用には届きませんでしたが、昨年度対比3件増のご利用をいただきました。

- ◇ 会場利用実績  
平成27年4月～平成28年3月末までの利用件数 34件  
オープン(平成16年)以降の累計 441件

(7) 農産物処理加工施設整備事業(大豆の里京北「第6次産業」化拠点施設整備事業)

平成24年度に施設が完成し、施設名称を『山国「水・土・里の館」』として、事業開始から3年が経過する中、京北まごころみその生産を中心に、納豆餅やその他農作物の加工生産及び販売に取り組んでまいりました。

実質の管理・運営は山国さきがけセンターが行っており、公社は事業主体として、施設に関連する減価償却などの事務処理関係についての役割を担っています。

《参考》	平成27年度	京北まごころ味噌加工実績		
	仕込実績	12,980 kg	※ 前年度	8,000 kg
	売上実績	11,620,161 円	※ 前年度	7,783,000 円

(8) 合併記念の森創設事業

京都市からの委託事業として一昨年から受託しており、平成27年度は9月から臨時職員1名を週2~3日間勤務で雇用し、合併記念の森内の管理道路、歩道、建物管理等通常の維持管理や、倒木処理、崩土除去等の土木工事等に取り組むとともに、11月及び2月に実施された年間2回の森づくりイベントにも積極的な協力を行いました。

◇ 事業委託料 1,985,000 円

(9) 山村地域担い手育成定着支援事業

農機具の貸付による新規就農者の支援対策に資するため、また公社の管理農地での農作物栽培に活用するため、作業に必要な農業機械を80%の補助を受け導入いたしました。

※ 平成27年度導入機械 : 5条植え田植機 1台、管理機 1台、畦付機 1台、自走式草刈機 1台

◇ 事業補助金 2,460,000 円

(10) 京北地域農地集積人材育成事業(緊急雇用対策事業)

前年度に引き続き、京北地域が抱えている農業の担い手不足や、遊休農地の増加に対する課題対策のため、担い手農家への農地集積や農家の経営安定、農

業経営の効率化等を進めることを目的に取り組みました。

臨時職員 2 名を新たに雇用し(平成 26 年からの雇用者 2 名はその他雇用として継続雇用)、公社の事業である「農地利用集積円滑化事業(農地中間管理事業含)」との関連のなかで、農地の耕作条件や集積に伴う調査を行うとともに、空き家を活用した新規就農者への住居の斡旋等を行ないました。

また、昨年度より北桑田高校 1 年生普通科の生徒と取り組んでいる、農作物の栽培について、平成 27 年度は 30 余名の生徒がさつま芋の定植と収穫に關つていただき、学校のキャリア教育の一環として農作業と自然相手の物づくりを体験いただく中で、満足いただけた取り組みとなりました。

◇ 事業委託料 10,800,000 円